

1面のコラム「^{しゃめん}斜面」を読もう

斜面

2021.11.28

すぐにも地球に衝突する。衝撃の予測をコンピュータが示したのは2008年10月6日だった。見つかったばかりの小惑星。世界中から集まる追加データによってNASAは史上初の警報を出した◆大気圏に突入して、スーダン上空で爆発。大量の隕石が落ちたが、被害はなかった。不意を突かれたこともある。13年2月15日、ロシア南部の上空に直径約15kmの天体が現れて爆発した。衝撃波で約1600人が負傷し、7300棟余に被害が出た。災害発生まで接近に気づけなかった◆地球に近づく天体（NEO）の監視網は年々強化されている。米国はハワイに大型望遠鏡を設置し、宇宙からも監視する。木曾町にある東大木曾観測所も動画撮影システム「トモエゴゼン」を駆使。これまで2万7千個が見つかったが、地球に大惨事をもたらす危険はないようだ◆ただ、危ない天体が新たに見つかる可能性はある。その時、どうするか。衝突まで時間があれば、高速で物体をぶつけて軌道を変える方法が最も現実的だという。24日、約160kmの天体に体当たりさせる初めての実験探査機が米国で打ち上げられた◆観測機関の一つ日本スペースガード協会によると、太陽を背にするもの、まっすぐ向かってくるものは見つけづらい。油断は禁物だ。気候変動、新たな変異株が出現したコロナ、NEO。世界の連帯だけが危機を回避する道だ。エネルギーを浪費して国が力比べをしているのは愚かしい。

斜面

2021.11.29

カラマツに孤高を見たのは、詩人の北原白秋だ。へからまつを過ぎてへからまつをしまじみと見きで始まる「落葉松」は、1921（大正10）年夏の軽井沢散策から生まれた。続くへからまつはさびしかりけりへが孤高をうたう◆評論家の川本三郎さんが著書「白秋望景」で解説している。「さびしかりけり」は否定の状態ではない。まっすぐで余計な枝葉を付けないカラマツの孤高の静けさに白秋は浸ろうとしている、と。冬を前に針の葉を落とした樹形にもすがすがしさが漂う◆詩人の心を揺さぶる美しさとは裏腹に、木材としての評判は高くなかった。ヤニが多く、製材するとねじれが出やすいためだ。成長が早い半面、根が深く張らず、台風や豪雨のたびに倒木も目立つ。「カラマツを植えてきたのは失敗だったのではないか」といった声も出るほどだ◆ところが近年需要が増え、高級材のヒノキより高く取引されることも。杭など土木用材が主流だった用途が、家の柱や梁、外壁、家具へと広がる。林材ジャーナリスト赤堀楠雄さんの本紙連載「信州カラマツを宝に」が伝えている最新の状況が興味深い◆国際情勢の変化による輸入材の急減で、利用価値を高めようと試行錯誤した人たちの努力が実りつつある。県内は人工林の55%がカラマツだ。信州の風景に溶け込み、四季の彩りに欠かせない存在でもある。育て、使い、守っていく循環を確かなものにできないか。地域ぐるみで考えたい。

1面のコラム「^{しゃめん}斜面」を読もう

ひらがなを漢字になおして書きましょう。

斜面

2021. 11. 28

すぐにもちきゅう
にしようとする
―。しようげきの
よそくをコンピュー

ターがしめしたのは200
8年10月6日だった。みつ
かったばかりのしょうわく
せい。せかいじゅうからあ
つまるとつかデータによつ
てN A S Aはしじょうはつ
のけいほうをだした◆たい
きけんにとつにゆうして、
スーダンじょうくうでばく
はつ。たいりょうの隕石が
おちたが、ひがいはなかつ
た。ふいをつかれたことも
ある。13年2月15日、ロシ
アなんぶのじょうくうにちよつ
けいやく15億のてんたいが
あらわれてばくはつした。
しょうげきはやく160
0にんがふしょうし、73
00とうよにひがいがでた。
さいがいはっせいまでせつ
きんにきづけなかつた◆ち
きゅうにちかづくてんたい
(NEO)のかんしもうは
ねんねんきょうかされてい
る。米国はハワイにおおが
たぼうえんきょうをせつち
し、うちゅうからもかんし
する。きそまちにある東大

木曾観測所もどうがさつえ
いシステム「トモエゴゼン」
をくし。これまで2まん7
せんこがみつかったが、ち
きゅうにだいさんじをもた
らすきけんはないようだ◆
ただ、あぶないてんたいが
あらたにみつかるかのうせ
いはある。そのとき、どう
するか―。しようとつまで
じかんがあれば、こうそく
でぶつたいをぶつけてきど
うをかえるほうほうがもつ
ともげんじつてきたという。
24日、やく160億のてん
たいにたいあたりさせるは
じめてのじっけんたんさき
が米国でうちあげられた◆
かんそくきかんのひとつ日
本スペースガード協会によ
ると、たいようをせにする
もの、まっすぐぶかってく
るものはみつげづらい。ゆ
だんはきんもつだ。きこう
へんどう、あらたなへんい
かぶがしゅつげんしたコロ
ナ、NEO―。せかいのれ
んたいだけがききをかいひ
するみちだ。エネルギーを
ろうひしてくにがちからく
らべをしているのはおろか
しい。

しゃめん

コラム「斜面」を読んで考えを深めよう

年 組 名前

斜面

2021.11.29

カラマツに孤高を見たのは、詩人の北原白秋だ。へからまつを過ぎてへからまつをしまじみと見きで始まる

「落葉松」は、1921（大正10）年夏の軽井沢散策から生まれた。続くへからまつはさびしかりけりへが孤高をうたう◆評論家の川本三郎さんが著書「白秋望景」で解説している。「さびしかりけり」は否定の状態ではない。まっすぐで余計な枝葉を付けないカラマツの孤高の静けさに白秋は浸ろうとしている、と。冬を前に針の葉を落とした樹形にもすがすがしさが漂う◆詩人の心を揺さぶる美しさとは裏腹に、木材としての評判は高くなかった。ヤニが多く、製材するとねじれが出やすいためだ。成長が早い半面、根が深く張らず、台風や豪雨のたびに倒木も目立つ。「カラマツを植えてきたのは失敗だったのではないか」といった声も出るほどだ◆ところが近年需要が増え、高級材のヒノキより高く取引されることも。杭など土木用材が主流だった用途が、家の柱や梁、外壁、家具へと広がる。林材ジャーナリスト赤堀楠雄さんの本紙連載「信州カラマツを宝に」が伝えている最新の状況が興味深い◆国際情勢の変化による輸入材の急減で、利用価値を高めようと試行錯誤した人たちの努力が実りつつある。県内は人工林の55%がカラマツだ。信州の風景に溶け込み、四季の彩りに欠かせない存在でもある。育て、使い、守っていく循環を確かなものにならないか。地域ぐるみで考えたい。

①カラマツが、木材として評判が高くなかったのは、なぜですか。

②近年カラマツの需要が増え、高級材のヒノキより高く取引され、用途が広がっていることについて、コラム「斜面」は、何と書いていますか。

③筆者の考えに対して、あなたはどのように考えますか。200字程度で書きましよう。

Grid for writing answers to questions 1, 2, and 3.

コラム「^{しゃめん}斜面」を読んで考えを深めよう

解答例

年 組 名前

斜面

2021.11.29

カラマツに孤高を見たのは、詩人の北原白秋だ。へからまつを過ぎてへからまつをしまじみと見きで始まる

「落葉松」は、1921（大正10）年夏の軽井沢散策から生まれた。続くへからまつはさびしかりけりへが孤高をうたう◆評論家の川本三郎さんが著書「白秋望景」で解説している。「さびしかりけり」は否定の状態ではない。まっすぐで余計な枝葉を付けないカラマツの孤高の静けさに白秋は浸ろうとしている、と。冬を前に針の葉を落とした樹形にもすがすがしさが漂う◆詩人の心を揺さぶる美しさとは裏腹に、木材としての評判は高くなかった。ヤニが多く、製材するとねじれが出やすいためだ。成長が早い半面、根が深く張らず、台風や豪雨のたびに倒木も目立つ。「カラマツを植えてきたのは失敗だったのではないか」といった声も出るほどだ◆ところが近年需要が増え、高級材のヒノキより高く取引されることも。杭など土木用材が主流だった用途が、家の柱や梁、外壁、家具へと広がる。林材ジャーナリスト赤堀楠雄さんの本紙連載「信州カラマツを宝に」が伝えている最新の状況が興味深い◆国際情勢の変化による輸入材の急減で、利用価値を高めようと試行錯誤した人たちの努力が実りつつある。県内は人工林の55%がカラマツだ。信州の風景に溶け込み、四季の彩りに欠かせない存在でもある。育て、使い、守っていく循環を確かなものできないか。地域ぐるみで考えたい。

①カラマツが、木材として評判が高くなかったのは、なぜですか。

【解答】 ヤニが多く、製材するとねじれが出やすいため

②近年カラマツの需要が増え、高級材のヒノキより高く取引され、用途が広がっていることについて、コラム「斜面」は、何と書いていますか。

【解答】 国際情勢の変化による輸入材の急減で、利用価値を高めようと試行錯誤した人たちの努力が実りつつある

③筆者の考えに対して、あなたはどのように考えますか。2000字程度で書きましょう。

Grid for writing the answer to question 3.

1面のコラム「斜面」を読もう

斜面

2021.11.28

すぐにも地球に衝突する。衝撃の予測をコンピュータが示したのは2008年10月6日だった。見つかったばかりの小惑星。世界中から集まる追加データによってNASAは史上初の警報を出した◆大気圏に突入して、スーダン上空で爆発。大量の隕石(いんせき)が落ちたが、被害はなかった。不意を突かれたこともある。13年2月15日、ロシア南部の上空に直径約15kmの天体が現れて爆発した。衝撃波で約1600人が負傷し、7300棟余に被害が出た。災害発生まで接近に気づけなかった◆地球に近づく天体(NEO)の監視網は年々強化されている。米国はハワイに大型望遠鏡を設置し、宇宙からも監視する。木曾町にある東大木曾観測所も動画撮影システム「トモエゴゼン」を駆使。これまで2万7千個が見つかったが、地球に大惨事をもたらす危険はないようだ◆ただ、危ない天体が新たに見つかる可能性はある。その時、どうするか。衝突まで時間があれば、高速で物体をぶつけて軌道を変える方法が最も現実的だという。24日、約160kmの天体に体当たりさせる初めての実験探査機が米国で打ち上げられた◆観測機関の一つ日本スペースガード協会によると、太陽を背にするもの、まっすぐ向かってくるものは見つけづらい。油断は禁物だ。気候変動、新たな変異株が出現したコロナ、NEO。世界の連帯だけが危機を回避する道だ。エネルギーを浪費して国が力比べをしているのは愚かしい。

斜面

2021.11.29

カラマツに孤高を見たのは、詩人の北原白秋だ。へからまつを過ぎてへからまつをしてみじみと見きで始まる「落葉松(かからまつ)」は、1921(大正10)年夏の軽井沢散策から生まれた。続くへからまつはさびしかりけりへが孤高をうたう◆評論家の川本三郎さんが著書「白秋望景」で解説している。「さびしかりけり」は否定の状態ではない。まっすぐで余計な枝葉を付けないカラマツの孤高の静けさに白秋は浸ろうとしている、と。冬を前に針の葉を落とした樹形にもすがすがしさが漂う◆詩人の心を揺さぶる美しさとは裏腹に、木材としての評判は高くなかった。ヤニが多く、製材するとねじれが出やすいためだ。成長が早い半面、根が深く張らず、台風や豪雨のたびに倒木も目立つ。「カラマツを植えてきたのは失敗だったのではないか」といった声も出るほどだ◆ところが近年需要が増え、高級材のヒノキより高く取引されることも。杭(くい)など土木用材が主流だった用途が、家の柱や梁(はり)、外壁、家具へと広がる。林材ジャーナリスト赤堀楠雄さんの本紙連載「信州カラマツを宝に」が伝えている最新の状況が興味深い◆国際情勢の変化による輸入材の急減で、利用価値を高めようと試行錯誤した人たちの努力が実りつつある。県内は人工林の55%がカラマツだ。信州の風景に溶け込み、四季の彩りに欠かせない存在でもある。育て、使い、守っていく循環を確かなものにできないか。地域ぐるみで考えたい。

1面のコラム「斜面」を読もう

ひらがなを漢字になおして書きましょう。

斜面

2021. 11. 28

すぐにもちきゅう
にしようとする
―。しようげきの
よそくをコンピュー

ターがしめしたのは2008年10月6日だった。みつかったばかりのしょうわくせい。せかいじゅうからあつまるとつかデータによってNASAはしじょうはつのはけいほうをだした◆たいきけんにとつにゆうして、スーダンじょうくうでばくはつ。たいりょうの隕石いんせきがおちたが、ひがいはなかつた。ふいをつかれたこともある。13年2月15日、ロシアなんぶのじょうくうにちよっけいやく15桁のてんたいがあらわれてばくはつした。しょうげきはやく1600にんがふしょうし、7300とうよにひがいがでた。さいがいはっせいまでせっきんにきづけなかつた◆ちきゅうにちかづくてんたい(NEO)のかんしもうはねんねんきょうかされてい。米国はハワイにおおがたぼうえんきょうをせっちし、うちゅうからもかんしする。きそまちにある東大

木曾観測所もどうがさつえいシステム「トモエゴゼン」をくし。これまで2まん7せんこがみつかったが、ちきゅうにだいさんじをもたらすきけんはないようだ◆ただ、あぶないてんたいがあらたにみつかるかのうせいはある。そのとき、どうするか―。しょうとつまでじかんがあれば、こうそくでぶつたいをぶつけてきどうをかえるほうほうがもつともげんじつてきたという。24日、やく160桁のてんたいにたいあたりさせるはじめてのじっけんたんさきが米国でうちあげられた◆かんそくきかんのひとつ日本スペースガード協会によると、たいようをせにするもの、まっすぐぶかってくるものはみつげづらい。ゆだんはきんもつだ。きこうへんどう、あらたなへんいかぶがしゅつげんしたコロナ、NEO―。せかいのれんたいだけがききをかいひするみちだ。エネルギーをろうひしてくにかちからくらべをしているのはおろかしい。

コラム「斜面」を読んで考えを深めよう

斜面

2021.11.29

カラマツに孤高を見たのは、詩人の北原白秋だ。へからまつを過ぎてへからまつをしてみじみと見きで始まる

「落葉松」は、1921(大正10)年夏の軽井沢散策から生まれた。続くへからまつはさびしかりけりへが孤高をうたう◆評論家の川本三郎さんが著書「白秋望景」で解説している。「さびしかりけり」は否定の状態ではない。まっすぐで余計な枝葉を付けないカラマツの孤高の静けさに白秋は浸ろうとしている、と。冬を前に針の葉を落とした樹形にもすがすがしさが漂う◆詩人の心を揺さぶる美しさとは裏腹に、木材としての評判は高くなかった。ヤニが多く、製材するとねじれが出やすいためだ。成長が早い半面、根が深く張らず、台風や豪雨のたびに倒木も目立つ。「カラマツを植えてきたのは失敗だったのではないか」といった声も出るほどだ◆ところが近年需要が増え、高級材のヒノキより高く取引されることも。杭など土木用材が主流だった用途が、家の柱や梁、外壁、家具へと広がる。林材ジャーナリスト赤堀楠雄さんの本紙連載「信州カラマツを宝に」が伝えている最新の状況が興味深い◆国際情勢の変化による輸入材の急減で、利用価値を高めようと試行錯誤した人たちの努力が実りつつある。県内は人工林の55%がカラマツだ。信州の風景に溶け込み、四季の彩りに欠かせない存在でもある。育て、使い、守っていく循環を確かなものにならないか。地域ぐるみで考えたい。

① コラム「斜面」を読んで、筆者が言いたいことを簡潔に書きましよう。

② 【意見提示】 「斜面」の内容に対するあなたの意見を書きましよう。

③ 【展開】 あなたの意見の根拠を三つ書きましよう。

Three large dashed boxes for student responses.

() () ()

伝えたい順番